

巻 頭 言

このワーキングペーパーは、趙浩衍が 2025 年に大阪大学に提出した博士論文である「近世ベトナム家譜研究」の付録である。趙の論文は 18、19 世紀北部ベトナム・ハノイ近郊に位置する村落の有力家系が社会的上昇を遂げ科挙官僚を輩出するまでに至る過程を追っており、中央と地方を仲介する地方有力者の具体的事例を検討している。この論文からは、当該期東南アジアの中央政府と地方・村落の関係におけるベトナムの在り方が理解できるほか、20 世紀末に生まれた世代の問題関心を知ることができる。趙は大橋厚子が研究代表を務める GCR インキュベーション課題『『東南アジア発展径路』概念の深化に向けた FieldNote Archive の可能性: インドネシア・南スラウェシを事例として』のメンバーであり、本課題が中央と地方の関係の変化を検討の中心に置くことになったのは、大橋の長年の関心事が、趙そして今一人の若手メンバーである小田ならの問題意識に影響を受けたことによる。

趙の作成した本付録は、趙の博士論文の議論を支える基礎的作業であるとともに、公開して、ベトナムの家譜および村落在住有力者に関心のある多くの研究者に利用されるべき内容であり、公開の機会をあたえてくださった GCR 事務局に感謝をささげたい。

研究代表者

大橋厚子